

輸血のお話

臨床検査技師 田頭幸和

輸血とは、血液の機能が低下または量が減少した時に補充する輸血療法という治療の一つです。

輸血を怖がる理由としての多くは「エイズや肝炎といった感染症などに、輸血することで感染するのが怖い」という考えがあると思われまふ。その答えはある意味正解ですが、実際には輸血に伴う感染症はどんな種類でどのような頻度で起きているのでしょうか。

まず輸血に使用する血液はどのように準備されているのかというと、あらゆる場所で行っている献血によって集められ、その血液のすべてに検査が行われています。

検査項目としては、A B O 式血液型、R h 式血液型、不規則性抗体、肝機能検査、感染症スクリーニング（B 型肝炎、C 型肝炎、エイズなど）があります。その結果、献血された血液の内、約 4割が使用不可になっています。

次に輸血による感染症を発生する頻度ですが、2005 年から 2010 年までの 5 年間の集計では、B 型肝炎 9 例（13 万人に 1 人）

C 型肝炎 1 例（145 万人に 1 人）エイズは発症例無しというデータがあります。リスクはゼロではありませんが、低いことは理解してもらえらると思ひます。

つまり、輸血をしないで病状を悪化させる確率の方が、輸血をしたためにさまざまな感染症を発生する確率よりはるかに高いということです。

病院での輸血前には、輸血する血液が患者さん個人に適合するか検査をしています。その後、輸血を実施し、また輸血療法終了後最終輸血日（3 カ月以降に輸血後感染症検査を行っています。外来患者さんの場合は精算時、入院患者さんの場合は退院時に最終輸血日を記載した輸血後感染症の検査の案内を渡しています。治療後 3 カ月を経過した後、1 カ月以内をめどに案内書を持参のうえ、受診することを勧めします。検査は保険適用で行えます。

今後とも当院では、より安全な輸血療法を行っていきたく思っています。

第 1 回奈良県がんばる市町村応援表彰事業 田原本町が「地域活性化部門」で 最優秀賞を受賞

企画財政室総合政策課 ☎ 34・2083

県が県内各市町村を対象に募集した、奈良県がんばる市町村応援表彰事業で町が「地域活性化部門」最優秀賞に選ばれ、平成 26 年 12 月 24 日にかしはら万葉ホール（橿原市）で表彰を受けました。

この事業は、市町村の優れた行財政運営や地域を盛り上げる取り組みを表彰し、市町村間の健全な競争意識を醸成するため実施されました。

町は「人がいき（行き・生き）・かう（交う・買う）街づくり」をテーマに、町域公共交通活性化協議会を中心とした取り組みについて応募しました。

内容としては、住民・地域団体・交通事業者・町の連携・協働によるデマンド型乗合タクシー「ももたろう号」の運行、地域情報誌「ぼちぼちたわらもと」の発行、また田原本駅周辺の活性化を検討するワークショップや空き店舗を活用したイベント「やどかり市」などの実施についてです。

これらの取り組みは地域活性化だけでなく起業意欲の育成にもつながること、産官民が一体となって取り組みを行っていること、住民が地域課題を考え、その解決のために頑張っていることなどが評価されました。

今後とも、地域住民たちが中心となったまちづくりを支援し、人がいきかい、にぎわいを創出することで、まち全体の地域活性化につなげていきたいと考えています。



◀ 県知事から表彰を受ける寺田町長



▶ やどかり市で行われた磯城野高校の生徒による野菜などの販売